

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業  
戦略的国際共同研究プログラム(SICORP)  
日・英国共同研究（感染症） 事後評価結果

研究開発課題名	インターフェロン誘導性 GTPase による抗トキソプラズマ細胞自律的免疫及び生体防御機構の解明
研究開発代表者	山本 雅裕
代表機関	大阪大学

○評価委員会コメント

日英両国の研究者がそれぞれの得意分野を持ち寄って協力し、トキソプラズマ感染におけるインターフェロン誘導性 GTPase の役割やトキソプラズマの病原性メカニズムを明らかにした。Irgm2、GBP1、Irgb6 などの分子がトキソプラズマの排除に必要であることや、IWS1 や ROP18 などの分子がトキソプラズマの適応能に関与していることを示した。これらの成果は、当初の研究計画書には含まれていないが、トキソプラズマに対する新たな治療法開発や他の細胞内寄生病原体の理解に貢献する可能性が高い。着実かつ発展的な研究として高く評価できる。

一方で、当初の研究目的や英国側との関わり・交流に関する内容が報告書に記載されておらず、英国側の計画にあった HRMAN 解析を用いたトキソプラズマ感染制御機構の解析についても実施はされたようだが、結果は示されていない。今後の展望についても記載がないため、今後の期待について判断が難しいが、英国と連携した研究継続が望ましい。